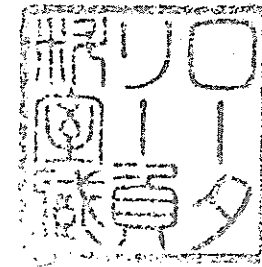




激動する国際情勢と前進する国際ロータリー

—— 最近5ヶ年の展望 ——

(July, 1962 - June, 1968)



扱て之の大きく流動する国際情勢を背景としての国際ロータリーの歩みも極めて目覚ましく、従来行われた小さい単位の奉仕活動から、国際分野での大きな活動と云うように飛躍的に前進を遂げて行ったのである。即ち1963～64年のR.I.会長ミラー氏の言葉の如く、偉大な交換 “The Great Exchange”ⁱ が着々となされ、複雑化する国際情勢にも拘らず、ロータリー奉仕精神の高揚と交換活動の一体性（ONENESS）を貫いて国際理解と平和増進へと歩を進めて行った。例えば国際間の地区対地区、クラブ対クラブの組合せによる技術開発の研究、国際理解の増進、或いはロータリー財団強化による各種援助活動、更に世界社会奉仕活動や青少年交換活動、インター・アクト・クラブの創設等、エネルギーにロータリーは活動を遂げて行った。即ち宇宙時代へのロータリーの進路を決定する大きな役割を演じたと云っても過言ではあるまい。

◇ 1962～63

この年の国際世界に於ける一大ニュースは1962年10月22日、米ケネディ大統領がソ連ミサイル基地建設を理由にキューバの海上封鎖を発表したことである。之は歴史的に見ても極めて重大意義を有し、之の危機のクライマックスを境に第二次大戦後の米ソ二大勢力による冷戦が結末を告げ、新たな平和共存ムードが醸成され出したのである。翌1963年5月には、アフリカ31ヶ国首脳会議が開催され、アフリカ憲章と非植民地決議を採択、愈々第三勢力としての新興国の抬頭が形となって現われて来た。

又、中印国境紛争及び停戦、米英ナッソー会談、仏、西独協力条約調印、米原子力潜水艦スレッシャー号沈没等もこの年の事件であった。

この年のR.I.会長には、アジアからの初の会長として、インドのラハリー氏が就任したが、同氏は“内部に火をもやせ”のスローガンのもとに情熱的に

ロータリー活動に取り組み、転換期を迎えた国際情勢にふさわしい、落ち着いたロータリーのあり方を強調されたのである。

本年度のロータリーの動きの中から大きな特徴としては、次のことがあげられると思う。

1. 事例研究の提案

（“Let’s Get Down to Cases” “事例と取組みませう”）

従来、陥りがちな職業奉仕の抽象性を脱脚し、実際活動に就ての具体的討論を推奨。特にハーバード大学経営学部に於ける事例研究の実際なども文献として紹介され効果をあげた。

2. ロータリー全世界友情網の利用

（“Window to the World” “世界への窓”）

ロータリーの全世界友情網を、ロータリアン又はノン・ロータリアンに利用して貰う新しい方法とプログラムが提案された。

3. インタアクト・クラブ (Interact Club) の創設

ロータリー精神を青少年に植えつける最も良い方法として、青年学校にロータリーに準じたインターアクト・クラブを設立させて奉仕活動を助長させる画期的な試みが発表された。計画発表後6日目にして第一番のクラブが誕生。その後も続々と世界の国々にクラブが生れ、現在迄に2,000をはるかに越える盛況を示すにいたった。

4. 小企業援助活動

（“Small Business Clinic” “小企業相談所”）

ラハリー会長の肝入りで、先進産業国のロータリアンが、後進国の小企業の事業主の活動を援助する為の相談所が開設され、アフリカのガーナのアクラ市の第一回を皮切りに、フィリピン、インド、パキスタン、その他で次々に開設

され多大の効果を挙げながら今日にいたっている。尚、日本からも、先進国としてコンサルタントが派遣された。

◇ 1963～64

この年のハイライトは、中ソ会談（7月）の決裂と対立激化、米英ソ核実験停止条約調印（8月）米ソ直通通信開始（8月）をもって現わされるように、歴史的にも中ソ離反、米英ソ接近が明確に打ち出され、新時代の到来を告げることになったことである。

次に、アデナウアー西独首相、英マクミラン首相が相次いで辞任、11月には青天の霹靂米ケネディ大統領が暗殺され、又、インドのネル首相が死去（5月）、ソ連フルシチョフ首相の辞任（1964年10月）と、相前後して世界首脳が第一線を退き、新指導者による交替が行われ、大きな転換期を迎えた。特に世界の期待を一身に集めていた米ケネディ大統領の死は全世界に大きな悲しみと痛手をもたらしたのである。

その他のニュースとしては、米ジョンソン大統領の就任、韓国朴大統領の就任、南ベトナムのクーデター（ゴ大統領逝去）パナマ紛争、アラスカ地震等があげられる。

この年のR.I.会長は、カールP・ミラー氏で「宇宙時代に於けるロータリーの進路」を明示し、国際的に距離感が短縮された今日こそ、従来にも増して大きな世界的スケールに於ての交換活動がなされねばならぬと強調し、国際ロータリーの個人対個人、クラブ対クラブ、地区対地区の偉大な交換計画が発表されたのである。ミラー会長時代の特色としては

1. 偉大な交換計画（“The Great Exchange”）

地区対地区の交換組合せ表が作成され、之に基いて秩序ある国際交換がなさ

れるよう推奨された。之により国際分野に於けるロータリーの地区対地区の交換活動、協力活動が活発化し、ロータリー史に一つのエポックを画する大企画が開始されたのである。

ミラー会長はこの交換活動を通じての平和への貢献の使命を特に強調して会員に感銘を与えた（“Building for Peace”）

2. 交換地区の紹介文献

地区対地区の交換活動を活発にするための資料として“A Visit to Your Matched District”が発刊され、参考に供された。之により、飛行機をチャーターしての会員による地区対地区の訪問が数多く実施され効果を挙げた。

3. ロータリー会員の拡大

ミラー会長の声がかかり各地に於けるロータリー活動を拡大させるために、ロータリーの会員拡大目標が示された。（“Guide to Rotary Club Membership Growth”）その結果、三年後には会員数60万を突破するにいたったのである。

◇ 1964～65

本年度のビッグ・ニュースは10月、中共初の核爆発実験成功に始まり、ソ連フルシチョフ首相に代ってコスイギン首相、ブレジネフ書記が任命され、米大統領選挙にジョンソン氏が勝利を収めた。

愈々中共が核保有国として西側の脅威となり、米ソ新指導者による両国接近は更に前進したのである。

翌2月には、米・南ベトナム軍により、北ベトナム爆撃が開始され、之を機にベトナム戦はエスカレーション的に泥沼への路をたどった。又、米ソ両国による宇宙遊泳実験成功の快挙は、愈々宇宙時代来るの感を全世界の人々に深く

きざみ込んだのである。

その他、之の年インドネシアが国連を脱退、又チャーチル元英首相の逝去が報ぜられた。

本年のR.I.会長はペッテンギル氏で、就任第一声“ロータリーに生きよう” (“Let Us Live Rotary”) のスローガンのもと、年内にロータリー創立60周年記念事業を迎えてこの年もロータリーは、国際的活動のもとに大きく進展をとげたと言える。

ペッテンギル会長時代のロータリーの動きで特筆されるものとしては次の如きものがある。

1. 世界社会奉仕の提案

(“Opportunity in World Community service”)

従来のクラブ単位或いは地区単位による社会奉仕活動をもっと大きく前進せしめて、世界的に海外クラブとの提携により、社会奉仕活動を行なおうと云う勇敢な提案がなされ、この年次後、このプログラムは逐年前進を続けていった。

2. ベトナム戦争犠牲者への援助

ベトナム戦争激化に伴い、犠牲者が激増し、之に対しロータリーから援助の手を差し伸べようとの提案がなされ、世界各地のロータリーから数々の温い援助がなされた。

3. 国際ロータリー創立60周年記念大会

アトラシチック・シテイ大会で盛大に催され、新たにロータリー精神を全世界的に喚起したのである。

4. ロータリー財団研究グループ交換事業の発足

各地区内の青年実業家及び専門職業人のグループを交換地区に2ヶ月間派遣して研究活動を実施することになった。

5. 国連とロータリーの関係を再認識

国連発足20周年を記念し、ロータリーとして国連に協力する精神を再び喚起し、単なる傍観者の態度を排し、積極的に平和の熱意を示すよう呼びかけが行われた。

6. ポール・ハリス賞授与 (1964~65, 1965~66)

ロータリアンの中で、最も有意義な奉仕活動をなし、ポール・ハリス事業にふさわしいと認められたものに、ポール・ハリス賞が授与されることになった。

◇ 1965 ~ 66

この年は世界大国に於ける新指導者による新体制確立が急がれたため、大国間の大きな事件は少なく、小国による局地的紛争が特徴となった。

インド・パキスタン紛争(9月)、インドネシアにクーデター(9月)、スカルノ大統領全権委嘱(翌年3月)、中共の整風運動(翌年6月)等が主たる事件としてニュースを賑わし、その他、ローマ法王とギリシャ正教の和解、米ジェミニ6、7号初の宇宙ランデブー、シュワイツァー博士の逝去、インド首相にガンジー女史の登場などが大きな話題となった。

本年度のR.I.会長は、ティーンストラ会長で、ロータリー活動は単なる掛け声に終るべきではなく、地道な行道をもって現はすべきだとの考えのもとに、行動(Action) 統合(Consolidation) 継続性(Continuity) の三点が強調された。

ティーンストラ会長時代の主なるロータリー活動としては次の如くである。

1. 新しい交換組合せの実施

従来の地区対地区組合せ活動から学んだ一つの結果として、新興国内の地区と工業的先進国の地区を組合せると云う新しい方法が実施された。

2. 国際理解増進活動に財団より補助金

ロータリー財団管財委員会は、新事業として国際理解増進を目的とした慈善行動、教育活動等に補助金を出すことになった。

4. 世界社会奉仕と青少年の国際交流

ティーンストラ会長は、デンバー大会で世界のロータリー・クラブの内、今や米国以外のクラブ勢力は58%に増大した。この際、世界社会奉仕と青少年の国際交流を強力に推進する必要があると強調。特に青少年の国際交流の意義を力説し、現在迄に5,300名の少年少女が海外交換計画により派遣された旨の発表を行った。（“Guide to International Youth Project”）

◇ 1966～67

この年度は中共の文化大革命、紅衛兵運動が世界の注目を集めたことに始まり、之を機に中共は孤立化を強め、更に翌67年に入って、中共水爆実験初成功と云うショッキングな報道が行われ、世界に新たな脅威をもたらしたのである。

又、米アポロ宇宙船の火災と宇宙飛行士の死亡、ソ連の宇宙飛行士の大気圏外殉職等の事件があり、米ソ両国による宇宙開発計画実施上の困難をしみじみ感じさせた。

インドネシアではスハルト氏による新内閣が樹立され、イスドネシア・マレ

ーシア協定が調印された反面、ベトナム戦争は愈々激化をたどり、又、香港に中共系暴動、ビルマ・中共紛争も起った。

中東では宿命のイスラエルとアラブ聯合諸国とが真向から対立し、遂に6月、中東戦争が勃発、僅か4日間の戦争でイスラエル軍が軍事的勝利を取めたが、紛争処理には大国間の思惑もからんで、解決にはかなり時間がかかりそうな情勢である。

本年度のR.T.会長にはリチャード・エバンス氏が就任、“ロータリーで、よりよき社会を”（“A Better World Through Rotary”）の目標を掲げ、精力的に活動を開始した。

尚この目標を達成する指針として10項目にわたる努力目標を示したが、本年度のロータリー活動の主なるものを列記すると次のようなものがある。

1. 世界社会奉仕委員会の設置

エバンス会長の指示に基き、地区毎に世界社会奉仕委員会（“World Community Service Committee”）を設けることが推奨され、同会長はロータリーの世界的分野に於ける社会奉仕を特に重視する旨発表した。

エバンス会長によれば『すべてのロータリアンは“どこかの誰かのために何かをするよう求められている”と云う考え方である。』

2. インターアクト・クラブ結成4周年祝賀

ラハリー会長時代に創設されたインター・アクト・クラブは、全世界各国に1,000をはるかに越える数までに発展し、めでたく4周年を迎えることになり、この機会にインター・アクトの意義を改ためて再認識するよう勧告された。

3. ロータリー財団強化

1917年にロータリー財団が発足して以来、50周年を迎え、同財団創立50周年

記念行事が行われ、財団強化策がとられると同時に財団活動を、より良く認識するようPRがなされた。

4. 会員数拡大

ミラー会長時代に掲げられた会員拡大の大目標は、3年後の当エバンス会長時代に入り、世界のロータリアン数が60万台を突破した。50万台を越えたのが7年前の1959年であったから、わずか7年にして10万のロータリアンが増加したことになる。

5. ロータリーに於ける青少年奉仕強化

エバンス会長は“ロータリー及びロータリアンにとって青少年奉仕ほど大切なものはない”との説話を発表し、重ねて青少年奉仕活動の重要性を強調した、(文献“*What Can We Do in Service to Youth*”)

6. 一体化する欧州 (“*The United Europe*”)

今年度の国際大会が欧州のニース市で開催される機会に、ロータリーとしても近年の一体化された欧州に関心をもつよう文献“*The United Europe*”が発刊された。

◇ 1967～68

1967年後半にいたり世界はそれまでの戦争の危機、核不安に加えて新たに国際経済の危機に直面した。即ち之の年11月、多年、内政、経済面の難局打開に務めて来た英国は遂にポンド切り下げを断行するの止むなきにいたり、之は国際通貨の通念上当然米国のドルに影響した。

アメリカは、此の処ベトナム戦争への膨大な戦費を始めとして、低開発国援

助、自由主義諸国へのドル資本の投入など、既に巨額のドルを消費して来た。一方自由諸国特にフランスはドルの蓄積をはかりながら、今次のポンド切り下げに刺戟されてドル紙幣に代る金を要求し、之は連鎖反应的に金の買占めを誘発した。こうした事象からアメリカの金保有量は急激に減少し、之に平行してドルの価値も次第に低下して行った。ジョンソン政府は、戦争の停止、輸出の振興、輸入の低減、国民の高度消費生活に見合った増税などドル防衛策を次々と打ち出したが意の如く進まず現在に到って居る。

しかし、最近に到り、内政の危機に見舞われたフランスを始めとしてドルに依存する各国はドルの安定なくして、世界経済は成り立たないことを次第に認識し始めて居るようである。吾が国は一言にして云えばフランスと相反する道を進み、ドルの安定に協力しながら引締め政策をとり、最近国際収支も次第に安定に赴きつつある。

以上の国際経済問題と共に本年度、第二に特筆すべき現象として、暴力特に青少年の破壊活動を挙げなければならない。表面的には政治への不信と不安が特に若い世代のエネルギーを破壊的方向に向はしめて居るが、思想的背景も考えられ之が燎原の火の如く拡大して居ることは各国共通の課題として対策をせまられている。とりわけ対ベトナム反戦運動、人種問題をかかえ 嘗てない程のゆさぶりをかけられている。アメリカに於て、本春、黒人問題のリーダーキング牧師の暗殺事件が在りその余噴もさめない。去る6月初旬、ロバート・ケネディ氏がヨルダン出身の一青年の兇弾に倒れると云う不祥事件が勃発し、アメリカは 政府も国民も挙げて建国以来の重大関頭に立たされて居る。

本年度のR.I.会長ルーサー・ホッジス氏は 就任に当り「ロータリアンとしてのあなたの資格を効果的に」をスローガンとして、四部門の奉仕活動面に参加し、表現することを提唱した。

之の年R.I.理事会は次のような部の新設を認めた。
数年前から始められた世界社奉仕プログラムはいよいよ軌道に乗り始めたので

世界社会奉仕部を独立せしめて各地区、各クラブ間の連絡のセンターとすることとなった。同じ理由から、青少年交換を取扱う部も新設された。

本年の新規計画として ホッジス会長の提唱による ロータリー海外奉仕篤志家プログラム (Rotary Volunteers Abroad) は世界中のロータリアンが、その生涯を通じて培った事業上、職業上の経験と技術を提供し、R. I. 海外奉仕隊とも称すべき組織により、どこの国であれ、それを最も必要としている国々の人に分ち与えると云うものである、本年度後半期に入り、登録者も追々増加したので之の部を独立せしめ、来年度から本格的活動に入ることになった。又R. I. の広報活動を担当する部門が、その道の専門家を動員して慎重にすすめられることになった。之を新設した理由は、ロータリーが各地域社会に於て、如何程すばらしい存在であっても、与論の支持を保つことが出来なければ効果的な社会団体としての存在理由を失なうに至ることを 数多くの地域調査から発見し、R. I. 理事会は、「善き行為を社会に正しく認識せしめることが広報の真意である」との前向きな決定をしたことによるものである。

又一般青年 (17才~25才) のための、奉仕組織体として、新たにローター・アクトを作り、従来からのインター・アクトと関連をもたせることになった。

1968年5月12日~16日、メキシコ・シテイに開催された国際大会に於て、東京クラブの元会長、同地区パスト・ガバナーの東ヶ崎 潔氏が、1968~69年度R. I. 会長エレクトに正式指名を受けた。

◇ む ◇ す ◇ び ◇

以上が最近の5ヶ年間に於ける国際情勢の変遷と、この激動する背景に於けるロータリーの歩みの大要であるが、此処で我々が特筆すべきことは、1968~1969年R I 会長に、日本から始めて、東ヶ崎潔氏が選出されたことである。

この5ヶ年間、我が日本の国際舞台に於ける地位は、弥が上にも改善され、その成長は正に世界の驚異であると同時に、国際ロータリーに於ける日本ロー

タリーの地位と責任も之に比例して重且つ大になったと云える。今や日本のロータリーは、米、英に次で一大勢力として国際ロータリーの重鎮的存在になったのである。近い将来、日本が更に一層世界の政治、経済上の重要国として外交舞台に登場すると同時に、日本ロータリーが、その質と量の両面に於て、世界のロータリーをリードする役割を果たすであろうことは、正に明白な事実である。